

令和2年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

世界中が新型コロナ・ウイルス感染症のパンデミックに翻弄された令和2年度は、鹿児島県においても感染防止のために様々な事業が中止または延期、規模を縮小しての開催を余儀なくされた。

感染症の重症化リスク要因に、生活習慣病（肥満、高血圧、脂質異常症、糖尿病）が指摘され、疾病の重症化予防や高齢社会に対応する地域包括ケアシステム構築等の必要性が高まり、予防としての「栄養管理」に対して社会的ニーズが今まで以上に高まった。そのような状況の中、鹿児島県の糖尿病重症化予防対策事業の一環として、3回の研修会を実施し、重症化予防の保健指導に従事可能な管理栄養士98名の名簿を整理した「地区割名簿」と「栄養指導の媒体」等を3年間の事業成果として鹿児島県に提出し、「糖尿病重症化予防」のためのネットワークづくりに貢献することが出来た。

また、鹿児島県から委託され作成した「食によるフレイル予防の手引き」を活用しての「ロコモ・フレイル予防啓発促進事業」に延べ9名の管理栄養士を派遣し、食生活改善推進員191名の実習を行い高齢社会に応える活動を行った。そして、より社会的ニーズに応える管理栄養士・栄養士を育成するための（公社）鹿児島県栄養士会主催の研修会をオンラインで実施し、200名以上が参加した。また、在宅訪問食事指導研修会をオンサイトで4回実施し、（公社）日本栄養士会が主催するオンライン研修にも多数の会員が参加し研鑽を深めた。

コロナ禍において、本会の重要な公益事業となっている県民公開講座は中止せざるを得なかったが、「管理栄養士によるクッキング講座」はホームページ上で5回掲載した。食生活の改善を促すための講演会、栄養相談などに延べ61名の講師を派遣し、感染予防を徹底した上で、「食事と栄養」の専門的知識と技術を普及した。

鹿児島市が主催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加し、感染症に留意した避難所支援訓練を行った。また、奄美地区においては全国で初めてとなる離島における災害支援栄養士（JDA-DAT）を12名養成することが出来た。「栄養110番」は毎週水曜日に電話による栄養相談を実施できたが、歯と口の健康週間、小児サマーキャンプ、全国糖尿病週間関連行事は中止となった。その他健康づくりに関する関連団体が主催する「かごしま臨床栄養連携研究会」等多くの事業に参加した。栄養ワンダー2020鹿児島県の活動として栄養週間（8月1日～7日）にインスタグラムでのメニュー掲載などを行った。

スポーツ栄養に関する研修会をオンラインで3回開催し、174名が参加した。研究活動としての垂水研究は中止となった。地域包括ケアシステムを推進するために、地区栄養士会の代表者と地域活動の現状を共有するための連絡会を実施した。